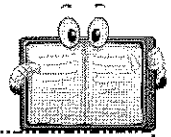


これからの模試について



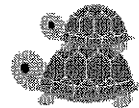
3年生のみなさんには、これからたくさんの模試を案内することになります。模試は、費用もかかりますし、受験するエネルギーも必要になります。それだけに、たくさんの模試を案内されるみなさんには、とまどいがあるかもしれません。進路指導部では、みなさんにできる限り模試を上手く活用して実力をつけてもらいたいと考えています。毎年、3年生の生徒のみなさんから模試に関して質問が寄せられますので、それらをQ&Aの形式で紹介していきます。

Q 1. 学校で案内される模試は、すべて受けないといけないのですか？



A 1. そんなことはありません。費用もエネルギーも要しますし、一人一人の進路希望が異なる以上、個人の目標や状況によって取捨選択して受験して欲しいと考えています。ただし、本校では、河合塾の全統共通テスト模試、全統記述模試を主軸の模試と位置づけ、その判定を面談などで用いています。全統模試は受験者数も多く、問題の難易度、模試結果の精度や付属資料を勘案しても、本校生にふさわしいものだと思われるからです。したがって、年間3回ずつ実施される共通テスト模試、記述模試は、可能な限り受験して下さいと呼びかけています。3回の模試の結果を追いかけることで、成績の伸びや弱点がよく見えてきます。なお、本校では河合塾の模試以外にも、駿台の共通テスト模試や全国模試、エール予備校の関関同立模試、各予備校の実戦模試等を案内します。これらの模試にはそれぞれの特徴がありますので、案内の時に担任の先生からどのような模試であるかを紹介していただきます。その内容をよく聞いて、自分に必要だと思われる場合は全統模試にプラスαして受験してみてください。

Q 2. 全統の共通テスト模試と記述模試はどう違うのですか？



- A 2. ① 共通テスト模試は、解答方法がマークセンス方式の模試で、大学入学共通テストの対策と入試に必要な基礎学力のチェックを目的とした模試です。(大学入学共通テストで実施の「英語リスニングテスト」にも対応しています。)あくまでも、大学入学共通テストを想定した内容・形式で出題されるので注意しましょう。私立大学の一般入試の受験を考えている人は、記述模試などでも実力をはかっておくことが大切です。
- ② 記述模試は、国公立大学の二次試験や私立大学入試に要求される記述・論述力を問う模試です。大学入学共通テストを利用する大学の判定では、全統共通テスト模試の成績をドッキングさせて、実際の入試と同様の総合評価がされます。また、第3回の記述模試は、大学入学共通テスト受験後に用いるバンザイシステムの判定資料としても活用されます。
- ③ 関関同立の受験を考えている人は、可能であれば秋に(11月頃～)各予備校が行う関関同立模試を、少なくとも一度は受験してもらいたいと考えています。

☆ 最後に。模試は受けるだけでは意味がありません。判定に一喜一憂する前に、やり直しに時間をかけましょう。やり直しとは、解説・解答の中に書かれている内容を理解し、自分のものにすることを指しています。模試で出題される内容は、実際の入試でも出題されると思ってやり直しをして下さい。模試は、「高価な問題集」「重要問題が凝縮された問題集」だとも言えます。じっくりと3回はやり直しをしましょう。志望校に合格した先輩は、そういう地道な努力をしています。先輩に続き、そして最後には先輩を超えていきましょう！